

ESDレポート vol.29

2012年夏 2012年9月12日発行

認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

ESDとは「持続可能な開発のための教育=Education for Sustainable Development」の略。環境・貧困・人権・平和など、私たちが直面するさまざまな問題に取り組み、豊かで公正な未来を創造するための「価値観」と「スキル」を育む、未来創造型の学びです。「国連持続可能な開発のための教育の10年（ESDの10年）」が2005年からスタートし、世界各国で取り組まれています。

Q. 持続可能な地域とは、「なに」が「どのような」状態の地域のことでしょう？

※ここでは、会員の皆さまからお寄せいただいた考えを掲載します。

●私の考え

異質なもの（性別・人種・世代・障がいの有無・自然と人工物・古いものと新しいもの……その他諸々同士）が、常に壁を超えて交流している社会ではないでしょうか。

（株式会社橋本新企画 橋本弥寿子）

●私の考え

千人前後の規模で持続可能な“地域循環・人型（ひとがた）社会”。“経済格差がない”（地域に合った再生可能エネルギー、地域出資売電制度など、格差のない富の分配）と「医療格差がない」（カフェコミュニティを中心として情報格差をなくすなど）の2つの柱からなる地域社会である。この2つの柱で地域内の全ての家庭を有機的に連携することによってあらゆる問題に対応するシステムを完成させる。

年寄りや子ども、障がい者等の社会的弱者を経済と医療を安定させることによって地域みんなで手助けしていけるのが人型（ひとがた）社会の概念です。さらに「地域」同士が連携することによって人間の臓器のような役目を果たし、「国」が健康な人間のように形づくられます。

（養生庵（甲府市） 能登貞人）

●私の考え

1. 「いのち」に基づく共生（共にある）と「未来」（持続可能性）というコンセンサスがある
2. 「自ら方法を考え課題を解決する」ための「学び合い」がある
3. 「つながりづくり」（参画としての学習と正統的周辺参加）がある
4. そのことで形成された新たな社会関係資本（人びとの力）が発揮される

“コミュニティエンパワーメント”という人もいますよね。（持続可能な開発のための教育の10年さいたま 長岡素彦）

特集

2014年に向けた新たなキックオフ

次号のQ&Aは、「Q. ESDは学校における『総合的な学習の時間』とは異なるものですか？」です。

6月16～17日、ESD-J全国ミーティングが東京で開催されました。また、7月からはESD-J理事も新体制となっています。今号では、2014年へ向けての新しいスタートを特集します。

目次

特集 2014年に向けた新たなキックオフ

ESD-J全国ミーティング2012 「今こそ持続可能な社会と教育の価値を共有しよう」.....	2
ESD-Jが取り組む「2014年目標と活動方針」の概要.....	4
ESD-Jの新理事体制がスタートしました！.....	5
理事体制および役割.....	5
新任理事のご紹介.....	5
トピックス ESD分野のリオ+20の成果.....	6
オススメ書籍のご紹介.....	6
今後の予定.....	6



ESD-J 全国ミーティング 2012 「今こそ持続可能な

今年の全国ミーティングは、ESD コーディネーター・プロジェクトのキックオフミーティングとして開催されました。この ESD レポートでは、プログラムのうち、〈現地報告「いま東北で」〉を中心にその模様をお知らせします。

※ コーディネーター・プロジェクトに関する全国ミーティングの詳細については、ESD コーディネーター情報交流誌『未来へつなぐ』をご覧ください。

現地報告「いま東北で」

昨年は、東日本大震災を受けて、ESD-J の全国ミーティングが被災地仙台で開催されました。それから1年。その間現地ではどのような動きがあったのか、そしてそこからわたしたちが学べるもの、学ばなければならないものは何か、3人の方にお話いただきました。

放射線副読本が示す学びのあり方

後藤忍さん

(福島大学 理工学群 共生システム理工学類 准教授)

2011年に起きた東京電力福島第一原発の事故を受けて、これまで行われてきた原子力に関する教育のあり方が改めて問われています。「原発のプラス面ばかり過度に強調されてきたことにより、リスクに関する公正な判断力が低下させられてきた様子を“減算力(げんしりょく)”と揶揄する声さえ出てきている」と、後藤さんは冒頭、

強烈な言葉を会場に投げかけました。

「これから日本で原子力をどうしていくのか、もちろん議論が必要ですが、そのためにはどうしても最低限の公平性の確保が欠かせません。2009年度(つまり原発事故以前)に原子力ポスターに入賞した子どもたちの作品を見ると、『きれいなエネルギー原子力』『原子力でみんな笑顔』等々、今の福島の実状から見ると痛々しく感じます。もちろん、子どもたち自身には何の非もありません。いかに原発推進側に偏った教育・広報がなされていたかの証左です。

原子力に関する従来の教育副読本(文部科学省と経済産業省が発行)は、今回の事故の後回収されました。そこには、火力発電のリスクとしての二酸化炭素のことは強調されているのに原発の放射性廃棄物についてはほとんど記載がないなど、公平性に欠けていました。そして事故後に新しくつくられた『放射線等に関する副読本』も、福島原発の事故については僅かしか記載がありません。今回のことを教訓として将来の世代に伝えていくためには、もっと詳しく取り上げるべきだと思います。

これまで、原子力に関して公正な判断力を保てないような教育的手法が採られてきたことが明らかになりました。公教育における公平性を確保し、公正な判断力を育てていくことはESDを進めていくうえでも大変重要なものではないでしょうか

つながりが織りなす震災復興

阿部正人さん

(南三陸町立伊里前小学校教諭)

昨年の全国ミーティングでも震災直後の話をされた阿部先生からは、改めてその後の1年余り、復興に向かう子どもたちと学校と地域のお話になりました。

「子ども夢プラン」という活動のなかで10年後の伊里前のまちを描いてもらうと、子どもたちは元々あったお店をもう一度建てたがるんです。『○○のお店で△△がまた食べたい』。そういう子どもたちの素直な言葉と、それから出前授業もたくさん受け入れて、そうやって外の人がやって来ると我々教師も元気をもらえます。教師の側が元気になるのがとても大事だと気づきました。

いろいろな支援が届くなかで、山のようにならされた野菜を子どもたちが地域に届けました。学校も地域の一員です。どうしたら役に立つことができるか。カゴメさんからいただいた苗を子どもたちが育てたトマトや、学校に持ってきていただいたジャガイモを、子どもたちが仮設住宅に配りにいきました。子どもたちは、役割ができたことに本当に意義を感じてやっていました。

ずっと続けてきたワカメの養殖の授業が津波で何もかもなくなってしまい、そうしたら漁師の方が、ゼロから、子どもたちと一緒に道具づくりからやってくれました。

場所を変えることで気持ちを変える大切さもありません。夏休みに二泊三日で農家ステイさせてもらう企画に、たくさんの子どもたちが参加しました

いろいろな支援を結びつけて、子どもたちと学校と地域が元気になっていく様子が伝わってくる報告となりました。



社会と教育の価値を共有しよう

地域復興と三陸ひとつなぎ自然学校

高木晴光さん
(NPO 法人ねおす理事長
黒松内ぶなの森自然学校代表)

高木さんは震災翌日の3月12日に、甚大な被害を受けた岩手県の釜石に入り、その後独自にボランティアセンターを立ち上げて現在までさまざまな活動を続けてきています。

「特に最初のうちは目の前に現れてくることにただ対処するしかありませんでした。誰かがいないと言われれば一緒に探し、下着が足りないと言われれば探し、こういう人がいないだろうかと言われればネットワークをつなぎ。仕組みをつくっている時間なんてありません。目の前のことに対して瞬時にベターなものを選ばないといけない。ベター、ベター、ベターと選びつけていくと次第に整ってくるんですね。事態に任せてあとは人間を信じるのが大切なのだと学びました。

北海道で自然学校をやっているスタッフがこれまでしっかりと経験を積んできたので、地域との関係性を割りやすく築くことができました。地域のどの人がキーパーソンで誰とつながればいいのか。これは文字通りコーディネーションです。コーディネーションとは人と人とがつながりあえる能力。今後の復興においてこれを取り戻していくことが欠かせません。

今一番力をいれているのは、うちのスタッフと地元で採用した人たち、さまざまな人たちでスタートさせた『三陸ひとつなぎ自然学校』です。小さな企業づくり、地元のビジネスを通しての地域づくりを目指しています」

.....

復興に必要なのはどんな“力”か？

3人のお話のあと、このセクションのコーディネーターを務めたESD-J理事の小金澤さんから、「“復旧から復興へ”とスローガンは立派ですが、しかし実際はまだ復旧中です。1年やそこらの慌てた復興だと持続可能な復興になりません。どうつくっていくかは10年単位で考えないといけない」と総括がありました。そしてその、“持続可能な復興”のために地域にどのような力を育んでいくべきかという問いに対して、まず後藤さんからは「これで正しいのかどうかを常に問いかける『批判力』と、“あちらをたてればこちらが立たず”という状況で物事を決める『判断力』」。阿部先生は、「課題を見つけて判断して行動する力、話し合いながら何かをつくりだしていく力」。高木さんは、「未知のものに関わろうとする力と変化を恐れない力。被災地でも、あきらめない人と変わっても構わないという人が今動力になっている」と答えました。

(取材・文：中川哲雄)



ESD-J 全国ミーティング 2012
「今こそ持続可能な社会と教育の価値を共有しよう」

日時：2012年6月16日～17日
場所：JICA 東京
主催：ESD-J 助成：地球環境基金

1日目

〈2014年に向けて（関係省庁からご挨拶）〉
菊池英弘さん（内閣官房 参事官）
藤田道男さん（外務省 国際協力局地球規模課題総括課 外務事務官）
井村隆さん（文部科学省 国際統括官補佐）
宮澤俊輔さん（環境省 総合環境政策局環境教育推進室室長）
〈Rio+20からアジアネットワークへ〉
鈴木克徳（ESD-J 理事）
〈現地報告「いま東北で」〉
後藤忍さん（福島大学 理工学群 共生システム理工学類 准教授）
阿部正人さん（南三陸町立伊里前小学校教諭）
高木晴光さん（NPO 法人ねおす理事長／黒松内ぶなの森自然学校代表）
〈基調提案「ESD コーディネータープロジェクトが目指すもの」〉
高田研さん（都留文科大学教授）
壽賀一仁（ESD-J 理事）
〈パネルディスカッション〉
太田祥一さん（群馬県教育委員会生涯学習課）
小原宗一さん（日本ボランティアコーディネーター協会）
鈴木まり子さん（NPO 法人日本ファシリテーション協会フェロー）
〈ワールドカフェ〉

2日目

〈前日の振り返り〉
〈分科会〉
①生物多様性を大切にしたい地域づくりに向けたコーディネーション
笹木智恵子さん（NPO 法人ウエットランド中池見）
久高将和さん（自然写真家）
②学校と地域が連携したESDのためのコーディネーション
中谷愛さん（多摩市教育委員会）
羽澄ゆり子さん（多摩市立蓮光寺小学校 教育連携コーディネーター）
③復興とコーディネーション力（コーディネーションの在り方）
阿部正人さん（南三陸町立伊里前小学校教諭）
〈まとめのセッション〉

関係各省庁からメッセージ

2014年に向け、ESD コーディネーター・プロジェクトの“キックオフミーティング”となった今年の全国ミーティング。開催に当たって関係省庁の方たちからご挨拶をいただきました。

「これまでのESDの取組みをどう評価するのか今後の実施計画をどうしていくのか、関係省庁だけではなくESDの有識者や活動団体のお知恵や実績を拝借しつつ進めていきたい」という内閣官房の菊池さんの言葉に続き、外務省の藤田さんからは「今日この場で集まったみんながつながることも“推進”になる。我々も、ぜひ皆さんと有機的なつながりをもちながらESDを推進していきたい」。また文部科学省の井村さんは、「“最終年”という言い方は避け、2014年以降もESDの推進に取り組んでいきたい。ESDは永遠に続くものと考えて」。環境省の宮澤さんは、「既存の環境保全活動や環境教育のESD化を図りたい。共通の分類整理のもとで話ができるようになれば、いろいろな分野の連携がよりスムーズにいくようになると思う」と語ってくださいました。

「国連ESDの10年」のラストスパート！

ESD-J が取り組む「2014年目標と活動方針」の概要

ESD-J 副代表理事 池田満之

2014年はESDの10年の最終年ですが、2014年にESDが全国・全世界で達成できている状況となることは難しく、ESDは継続して推進されるべきものです。2012年6月に開催されたリオ+20でも、2015年以降もESDを推進していくことが合意されました。ESD-Jでは、2014年目標を「2015年以降の着実なESD推進に向けた仕組みが構築されている」とし、以下の活動方針を立て、2012年6月のESD-J総会において承認を得ました。

① ESDの普及広報とESD関係者がつながるインフラづくり

◆目標◆

行政、教育機関、NPO/NGOなど、主要な教育および社会活動の担い手に、ESDの概念が認識され、それぞれの取組みの中に取り入れられている。

【ESD-Jのアクション】

- ESD実践に役立つ情報を収集・発信します。
- ESD推進に必要な価値観・知識・技能の修得のための研修システム構築に取り組みます。
- アジアのESD推進NGOのネットワークの設立に向けて先導的に取り組みます。
- ESD推進関係者とともに、ESD全国センター構想を策定し、その設立を働きかけます。
- + ESDプロジェクトを活用し、官民連携のESD推進の基盤システム構築を働きかけます。

② 学校と地域の連携によるESDの推進

◆目標◆

地域の機関や地域社会の人々と学校との交流が進み、地域の特性・資源を生かしたESDカリキュラムの開発・実施に向けた協働が進められている。

【ESD-Jのアクション】

- これまで取り組んできた学校と地域をつなぐESD研修の成果を、各地に展開します。
- 教員養成、教員研修においてESDを導入・強化するよう関係機関に働きかけます。
- 文部科学省や地域の教育委員会に対し、学校と地域をつないでカリキュラムづくりを支援する「教育コーディネーター」が活躍できる環境をつくるよう、働きかけます。
- 地域の住民やNPO/NGO等が学校への効果的なアプローチをするための方法を、各地の実践から抽出して情報提供（発信）します。

③ 地域におけるESD推進／コーディネーターの育成と活躍できる仕組みづくり

◆目標◆

市民活動の中間支援組織や社会教育施設、大学等におけるさまざまな分野のコーディネーターがESDの視点を持ち、ESDを意識した学びのコーディネートが進められている。

【ESD-Jのアクション】

- 多様な団体等とともに、ESDの視点を持ったコーディネーターの育成に取り組みます。
- 多様なコーディネーターの学びあいの場づくりやネットワークづくりを行います。
- コーディネーターを支える仕組み事例を調査し、自治体等に仕組みづくりを提案します。



ESD-J の新理事体制がスタートしました！

7月からESD-Jは新しい理事体制となりました。2014年に向けた体制の強化を図るため、これまで14名だった理事を18名としました。また、代表理事は、阿部治と重政子の共同代表となりました。

さらなるESDの推進に向けて

代表理事 阿部 治



国連ESDの10年が2005年から始まり、これまでさまざまな取り組みが進められてきた。2008年に閣議決定した教育振興基本計画の中ではESDが明記された。一方、リオ+20の成果文書の中ではノンフォーマル・エデュケーションが強調されている部分がある。日本の場合は、学校だけではなく、地域づくりとしてESDに取り組んでいるところがある。2014年の最終年會合に向けて、そして2015年以降に何をやるか、現在、政府に提案しているところである。できれば多くの方々と一緒にESDの取り組みを進めていきたいと考えている。

ラストパートをご一緒に

代表理事 重 政子



ESD-Jとしての10年の総括には、2015年以降を視座に据えた、持続可能な社会構築に必要な人づくりの仕組みを残すことを2014年までの重点目標としました。時あたかもリオ+20の合意文書にDESD(国連ESDの10年)の終了年を超えてESDを推進することが書き込まれたこと、また、持続可能な社会づくりに向けグローバルな高等教育機関のネットワーク(HESI)が発足したこと、更には自然資本を国家勘定・企業会計に組み込むプロジェクトや、「自然資本宣言」の発表等の報告から、リオを契機にこの流れが本格化することと予測され、ESDに関しては大きな成果があったと評価できそうです。

新理事体制のもと、あらゆる地域の人たちとESDでつながりたいと願っています。

<理事体制および役割>

代表理事 阿部治、重政子
副代表理事 池田満之

震災復興・地域再生支援	主な担当理事：小金澤孝昭
学校と地域の連携によるESD推進	主な担当理事：池田満之
地域におけるESD推進およびコーディネーターの社会化	主な担当理事：森良、壽賀一仁
国際ネットワーク推進	主な担当理事：鈴木克徳、名執芳博
普及啓発・情報収集・提供	主な担当理事：吉澤卓、長岡素彦
全国センター構想	主な担当理事：阿部治、重政子
財政基盤強化	主な担当理事：阿部治、重政子、関正雄

地域担当理事：

【北海道】池田誠	【東北】小金澤孝昭
【関東】森良	【北陸】鈴木克徳
【東海】新海洋子	【近畿】枚本育生
【中国】池田満之	【四国】竹内よし子
【九州】三隅佳子	【沖縄】大島順子

組織運営理事 阿部治、重政子、池田満之、鈴木克徳、村上千里

新任理事のご紹介

新海 洋子 (環境省中部環境
パートナーシップオフィス)



2014年にESDの10年が終わる。その時に「10年間の蓄積」が社会に浸透しているよう役割を果たしたい。そしてその後、「し続ける」しくみがこの社会に定着するよう、ESDの大切さを伝え、共感くださる方、実践されている方との連帯を深めたいと思っています。

壽賀 一仁 (一般社団法人あ
いあいネット)



持続可能な地域づくりへ取り組む世界各地の人たちの学びあいへの協力に、自らも当事者として参加しつつ取り組んでいます。多くの人にこうした動きを呼びかける方法としてESDを皆さんと考えていきたいです。

関 正雄 (株式会社損害保
険ジャパン/公益財団法人損
保ジャパン環境財団)



ESDはCSR(企業の社会的責任)の推進においても、社員教育の中心的概念に据えて取り組むべき重要な課題です。学校教育の枠を超え、多くの企業の中にもESDが浸透していくことを願っております。

長岡 素彦 (持続可能な開発
のための教育の10年さいたま)



自治体や企業と行ってきた環境まちづくり、福祉のまちづくりや社会教育、学校教育での今までの経験を生かしてESD、そして、DESD(国連ESDの10年)以降に向けてESD、ポストESDについても検討し形にしたい。

名執 芳博 (公益財団法人長
尾自然環境財団)



国連大学高等研究所においてESDに関わり、持続可能な社会づくりにESDが重要との思いを強くし、何らかの貢献をしたくESD-Jの理事に立候補しました。特に国際的な分野で貢献できればと考えています。



ESD分野のリオ+20の成果

本年6月20～22日にかけてブラジルのリオデジャネイロで「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」が開かれました。また、この会議に先立つ約1週間、さまざまなサイドイベント等が開かれました。ESD-Jからは阿部 治代表理事、名執芳博理事、野口扶美子国際プログラム・コーディネーターが参加し、ESD-Jとしての公式サイドイベントの開催、各種の関連サイドイベント等への参加・貢献、リオ+20に参加したさまざまな関係者との情報・意見交換、グローバルな、またはアジアにおけるESD推進に向けたアピール等を行いました。この会議の詳細な報告は、ESD-Jのホームページに掲載されています。リオ+20の成果については、必ずしも高い評価を得ていませんが、5万人近いといわれるさまざまな関係者がリオに集まって議論したことは高く評価されました。リオ+20は、今後の持続可能な社会づくりの主役が、政府・国連から市民社会やNGO、企業等のさまざまなステークホルダーに移行しつつあることを強く印象づけた会議でした。

リオ+20で、「国連ESDの10年の終了年を超えてESDを推進する」ことが世界的に合意されたことは大きな成果です。また、持続可能な社会づくりに向けたグローバルな高等教育機関のネットワークがリオ+20で発足したことも特筆に値します。



今後、我が国は、リオ+20の成果を踏まえ、2014年の日本でのESD世界会議に向けて、世界のモデルとなるよう、さらなるESDの推進に努めて行くことが求められています。 (ESD-J 理事 鈴木克徳)

ESD-Jが主催したサイドイベントの様子
中央は、インド環境教育センター(CEE)代表のサラパイ氏。「文化は持続可能な開発を支える柱の一つ。文化は知識を貯蔵し、ESDはその部分に重なる。」

- ◆ 今後の予定 ◆
- 10月6日(土) ※18時以降の予定 リオ+20報告会開催 (於:立教大学)
ESDの視点から、リオ+20の成果と課題について検証し、今後のアクションについて参加者の皆さんと議論します。
 - 11月10日(土)・17日(土) 環境保全戦略講座開催 (於:東京都渋谷区)
「NGO・企業・地域と学校の連携で 豊かな学びを生み出そう(仮称)」と題し、多様な主体の連携による効果的な学びの場を生み出す力を伸ばします。
 - 11月30日(金) ESD-J国際フォーラム(仮称)開催 (於:立教大学)
広くリオ+20の成果を周知するとともに、2014年DESD最終年総括会合に向けた取組みについてアジアのNGOも含め、国際的に議論します。
※詳細が決まり次第、ESD-Jウェブサイトに掲載いたします。



今年の全国ミーティングでは、前年に引き続き被災地での活動が取り上げられた。私も先月、ゼミ合宿で一年ぶりに宮城県南三陸町を訪れた。未だに被災の爪痕は癒えず、現在も仮設住宅での生活が続いている。そんな中、昨年瓦礫撤去をお手伝いしたふゆみず田んぼが見事に復田していた。こんなに力強い大地で育つ子どもたちには、これからの東北を担うべくたくましく育ててほしい。あの田んぼに生い茂る稲のように。(ESD-J インターン 小原田啓介)

認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)

http://www.esd-j.org/ e-mail: admin@esd-j.org
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F
TEL: 03-3797-7227 FAX: 03-6277-7554

● 会員募集中: 正会員 (10,000円)、準会員 (3,000円) 詳しくはHPをご覧ください ●

発行: 認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 編集: ESDレポート編集チーム レイアウト: 河村久美

※ ESD-Jでは、本年度より『ESDレポート』に加えて新たにコーディネーター情報交流誌『未来へつなぐ』を発行し、ご提供する情報量を増やしてまいります。ぜひ、どちらもあわせてお楽しみください。



この印刷物は、適切に管理された森林の認証木材から作られた紙と、輸送マイレージに配慮し、米ぬか油を使用したライスインキで印刷しています。

オススメ書籍のご紹介



東日本大震災をふりかえり、今を見つめ、対話する
未来をつくるBOOK

定価: 700円
発行: ESD-J 発売: みくに出版

未来のために、あなたから何を始めますか? 本書では震災の資料、被災者インタビューを通じて、当たり前と脆さを深く見つめます。そして未来への問いをもとに対話し、未来をつくる営みを紡ぎ出します。(ESD-J インターン 竹内友博)



わかる! ESD テキストブック 3
〈生物多様性編〉
生物多様性を大切にしたい地域づくりをはじめよう

定価: 500円
発行: ESD-J 発売: みくに出版

生物多様性の危機は、私たち一人ひとりを取り組むべき課題です。本書は、生態系と共存する知恵から持続可能な地域づくりを進めるための手引きです。人や自然とのかかわりあいの豊かさが、生物多様性を保全します。(ESD-J インターン 小原田啓介)

新メンバー紹介



5団体、15名の方が
新メンバーに加わりました。

- 団体正会員 北九州市、(株)橋本新企画
- 団体準会員 一般社団法人 葛西臨海・環境教育フォーラム、NPO法人 チームふくしま、美和リーダーズクラブ
- 個人会員 15名 (東北1名、関東10名、中部3名、近畿1名)

